

年をして鼻ぐらい人に云はれんかて自分でかみなはつたら如何だんね、それ漬物の中へ落ちたア、心の悪い、お政、洗濯は後にして辨當を先に入れて呉れと云ふのに、堅意地な奴やなア、汝も早う食べて寺屋へ行かんかい遅ふなるがな」

と云ふて居る處へ右の慌て者が

「オウオ、ライシヨ〜、オイ梅、火事やがな火事やがな、納まつて飯を食ふてるのやないで、オイ道具箱を出したアるか此方へ貸し焼けても道具さへ有れば明日から仕事が出来る、俺が持て逃げたる、オ、ライシヨ〜……………」

「オイ〜、そら何をするね、そんな無茶しないなア、俺朝出で仕事に行かうと思ふて道具を出したのに、それを持つて行て如何するね、俺仕事に行かれへんがな、お政、汝が早い事をせん依つてに彼様な無茶者が來て道具箱を持つて行き依つたがな、辨當を先に入れて呉れと云ふのに、洗濯は俺が出てからでも出来るがな、ア、お爺さんチョツと見て遣つとくなア、寢床から小さい奴が這ふて來ました。着物を着せて遣つとくなア、風邪を引きますせ、起きたら一遍小便を遣つとくなア、ア、お櫃を持つて立ち依る危険、手を放したら願を打ちますせ、お爺さんチョツと見とくなア、妙な顔をしていますせ、ソレ〜云わんこつちやない、小便垂れをしてまんがな、足でピチャ〜と踏んでる心の悪い、飯を食ふてる處で、お爺さんチョツとむつきを取て拭いとくなア、茶

碗を放しなア、茶碗は逃げしまへんがな、熱い湯を掛けて疊の目なりに拭きなア、そう横に拭いたら疊へ摺り込んでる様なもんや」

「オ、ライシヨ〜、梅洲まだ飯を喰てるのんか火事やと云ふのに（バリ〜）熱い〜、ア、お爺さん此方へおいで年寄は危いで俺が負ふて逃げたる、サアおいで、オ、ライシヨ……………」

「オイ〜何をするね、そらお爺さんが逆様やがな、頭が引揺つてるがな、頭痛病みになるがな、お政、それみい早い事をさらさん依つてにお爺さんを連れて行き依つたがな……………」

「オ、ライシヨ……………」

「コラ源公、汝何ぞ俺に興味遺恨でも有るのか、朝つばらから俺處の内へ暴れに來やがつてからに」

「暴れにやない梅洲火事やがな、火事やがな」

「火事やと云ふて何處ぞ騒いで居る處が有るか」

「騒いで居る處が有るかつて、火ハ、ン」

「何がハ、ンヤ」

「けども俺が二度目に這入つて來た時に足を火傷をしたで」

「火傷をした譯や、お粥の釜の中へ足を突込んだんやがな」

「ア、そうか、なんやおかしい具合やと思ふて居たんや、又内の婆と隣の佐助との仕事や、俺も悪氣